

水辺のふるさと かつしか 冬号

2018.9-11

自然環境レポーター通信



写真のタイトル：イヌビワ

撮影場所：水元公園

写真提供：市原 みずよ

水辺のふるさとかつしか 冬号

目次

- 1 55種の動植物調査結果 P 1
- 2 冬号イチオシの生きもの! P 2
- 3 自由レポート P 3 ~ 19
- 4 季節の写真集 P 20 ~ 22
- 5 魚からの便り P 23 ~ 26
- 6 環境課からのお知らせ P 27



編集担当のひとこと



こんにちは。環境課自然環境係の斉藤です。

今回から、水辺のふるさとが季刊誌としてスタートしました。今まで毎月発行していたものが、3か月に1度の発行になったので気軽に参加していただけるのではないのでしょうか。また、発行回数が減少したことにより、全ページカラーで皆さんにお届けすることが出来るようになりました。今までは写真などが少し寂しい感じもしましたが、カラーで掲載できることにより見やすく、季節の移ろいを感じることが出来るのではないのでしょうか。

これまで提出が難しかった方も、写真1枚でも構いませんので、エピソードなどを添えて送付していただきますと水辺のふるさとの表紙をカラーで飾るかもしれません。ですので、是非この機会にご参加よろしく願いいたします。

これからも皆様のご意見などを取り入れ、ブラッシュアップしていけるようにしていきます。

最後になりますが、2018年もレポートや研修などで大変お世話になりました。2019年もよろしく願いいたします。

斉藤

55種の動植物 調査結果(9月~11月)

【調査区1】 計31種

〈鳥類〉ウグイス・シジュウカラ
 〈昆虫〉ギンヤンマ・アキアカネ・オオカマキリ・エンマコオロギ・カンタン・アブラゼミ・ツクツクボウシ・ニイニイゼミ・ナガサキアゲハ・クロアゲハ・ナミアゲハ・ツマグロヒョウモン・**アカボシゴマダラ**
 〈植物〉アカメガシワ・スギナ・**ナガミヒナゲシ**・**シロツメクサ**・**イモカタバミ**・セリ・オオバコ・カントウヨメナ・カントウタンポポ・ツユクサ・**ジュズダマ**・ススキ
 〈哺乳類〉**ハクビシン**
 〈爬虫類〉**ミシシippiaアカミミガメ**・ニホンカナヘビ
 〈クモ類〉ジョロウグモ

【調査区2】 計18種

〈鳥類〉コアジサシ・コサギ
 〈昆虫〉アキアカネ・エンマコオロギ・カンタン・トノサマバッタ・クロアゲハ・ツマグロヒョウモン・**アカボシゴマダラ**
 〈植物〉スギナ・**シロツメクサ**・オオバコ・ツユクサ・**ジュズダマ**
 〈爬虫類〉ニホンカナヘビ
 〈クモ類〉コガネグモ・ジョロウグモ
 〈底生動物〉ベンケイガニ

【調査区3】 計27種

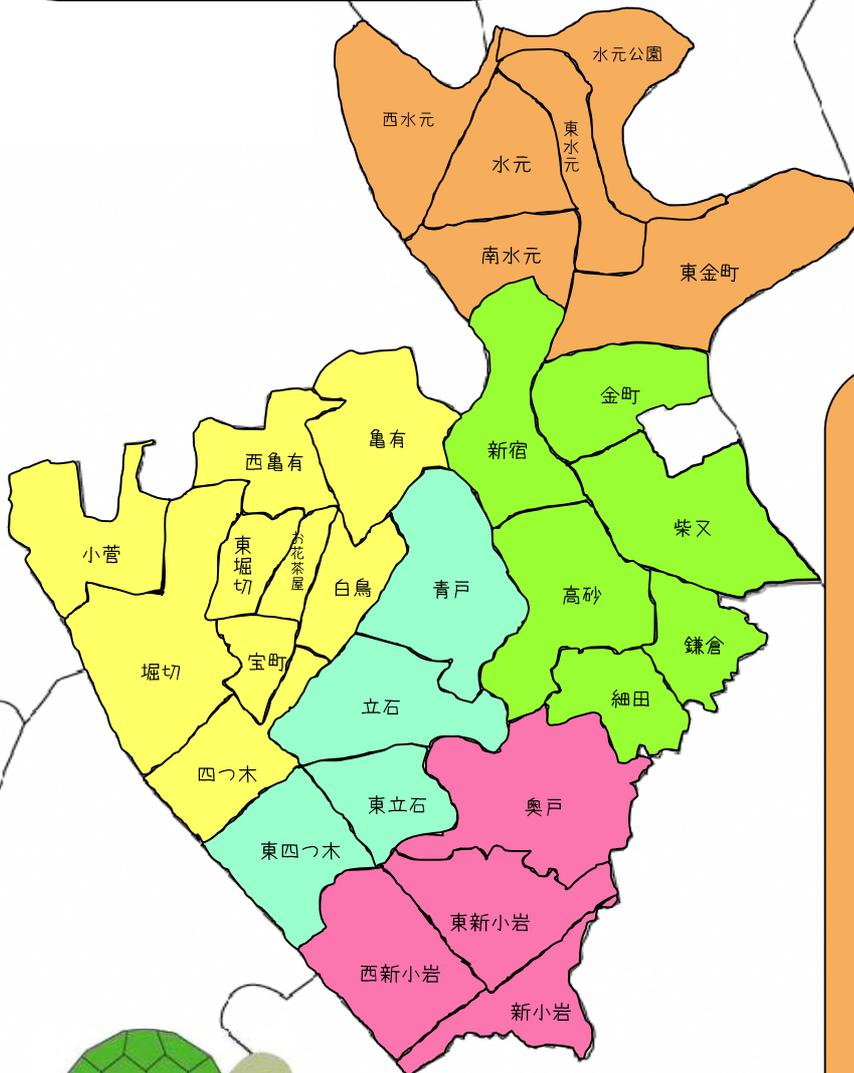
〈鳥類〉コサギ・シジュウカラ
 〈昆虫〉ギンヤンマ・アキアカネ・オオカマキリ・エンマコオロギ・カンタン・ナミアゲハ・ツマグロヒョウモン
 〈植物〉アカメガシワ・スギナ・**シロツメクサ**・**イモカタバミ**・**アレチウリ**・セリ・オオバコ・カントウヨメナ・ツユクサ・**ジュズダマ**・ススキ
 〈爬虫類〉**ミシシippiaアカミミガメ**・ニホンカナヘビ
 〈両生類〉ニホンアマガエル
 〈クモ類〉コガネグモ・ジョロウグモ
 〈底生動物〉メダカ・ベンケイガニ

【調査区4】 計7種

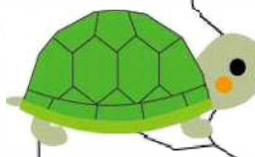
〈鳥類〉コガモ・シジュウカラ
 〈昆虫〉エンマコオロギ
 〈植物〉アカメガシワ・スギナ・**シロツメクサ**
 〈クモ類〉ジョロウグモ

【調査区5】 計40種

〈鳥類〉コガモ・ツグミ・ウグイス・コサギ・カワセミ・コゲラ・シジュウカラ
 〈昆虫〉ギンヤンマ・アキアカネ・オオカマキリ・エンマコオロギ・カンタン・トノサマバッタ・クマゼミ・アブラゼミ・ツクツクボウシ・ニイニイゼミ・ナガサキアゲハ・クロアゲハ・ナミアゲハ・ツマグロヒョウモン・**アカボシゴマダラ**
 〈植物〉アカメガシワ・スギナ・**シロツメクサ**・スズメノエンドウ・**イモカタバミ**・セリ・オオバコ・カントウヨメナ・カントウタンポポ・ツユクサ・**ジュズダマ**・ススキ
 〈爬虫類〉**ミシシippiaアカミミガメ**・ニホンカナヘビ・**ウシガエル**
 〈クモ類〉ジョロウグモ
 〈底生動物〉**ブルーギル**・ベンケイガニ



赤字は外来種だよ



レポートが見つけた

冬号イチオシの生きもの！

カツラ

カツラは、カツラ科カツラ属の落葉高木。

日本各地、中国、朝鮮半島に分布する。街路樹や公園樹に利用され、アメリカなどでも植栽されている。日本で自生するものはブナ林域などの冷温帯の溪流などに多く見られる

日本においては山形県最上郡最上町にある「権現山の大カツラ」が最も太く、地上から約1.3mの位置での幹周が20m近くまで成長している。

Wikipedia より引用



上記の写真は、11/25 に新井正樹さんが水元で撮影されたものです。よく見ると・・・なんと！緑の葉が見えます。例年だと紅葉し落葉していてもおかしくないのに・・・暖冬の影響でしょうか・・・。

自由レポート

氏名	高柳みどり	町名	興戸	調査区	1
----	-------	----	----	-----	---

興戸宝蔵院で、見かけた秋明菊です。9/9(水)に行きました。葛飾区の広報課から担当者に来ていて、写真をとったりしていました。

ヒガンバナが主流で、10年くらい前に比べて本数もまばらになりましたが、多くのカメラマンを呼んでいました。ヒガンバナのその中でひっそりと咲くシュウメイギクに、私の眼は、とまりました。



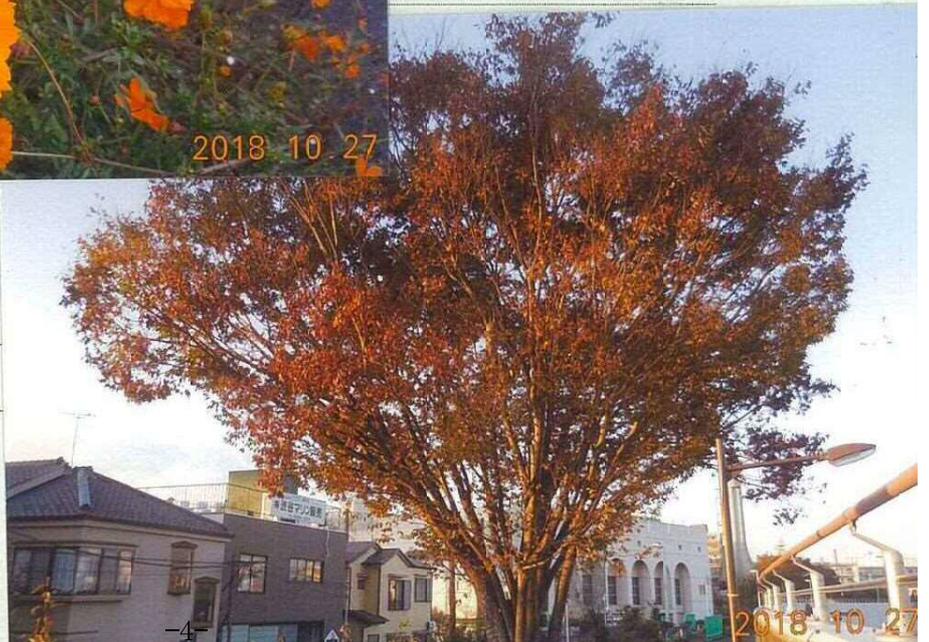
自由レポート

氏名	高柳 みどり	町名	東四つ木-1 西新小岩-5	調査区	1、2
----	--------	----	------------------	-----	-----

1. 中川土手 (平和橋 ~ 上平井橋) をよく散歩します
土手植えこみを一人で手入れをしている男性がいます。
秋になり、キバナコスモスがザワザワと咲いています
2. 東四つ木 中川中学校が見える所の土手に1本ある
ケヤキです。四季を感じさせる大木で、散歩の途中、
よく挨拶をした樹でした。10月終りに剪定か伐採
されるかの(お)紙がありました。お別れのつもりで
写真にとりました。



①



自由レポート

氏名	高柳みどり	町名	東四ッ木-2	調査区	2
----	-------	----	--------	-----	---

中川土手(平和橋~上平井橋)の桜堤とかいう所に
毎年 皇帝ダリアが咲く 3M近い高さで上の
桜の枝に かかりそうです。



彼岸花



調査区 1 弥生桜そう

異常に暑かった夏も終わりに近づきました。あの暑さは永劫に続くかと思われるほど厳しいものでしたが彼岸が近くなると、涼風が吹きひと息入れたようです。

今まで経験がないほど驚いたこと。それは彼岸花が今までにないほど早く咲いたことでした。九月の五日頃でした。草取りをしていたら草の中に赤い蕾を見つけて目を疑いました。記憶にないほど早く咲いたのです。彼岸花は彼岸きっちりと咲く不思議な花の筈です。いつまでも暑い日が続いている今年は遅れるのが、考えられます。それがなんでこんなに早く咲くのか？という疑問が湧きました。彼岸花をも狂わす異常気象だったのですね……。名前の由来のお彼岸の頃には、もう影もありませんでした。

百日紅は百日間にわたって咲くので名づけられました。七月に咲き始め、九月末にもどうにか咲いている。今年は台風の襲来が多いです。その度ごとに花は散り散りでした。花も季節が変わるのを待っていたのでしょうか。

秋雨が多い。一雨ごとに秋が来ます。夏の花も名残を惜しむが如く咲いて、秋の虫がひそやかに鳴いている。いつもは気になる虫の声もなんとなく小さい。

柿の実が実るころ



調査区 1 弥生桜そう

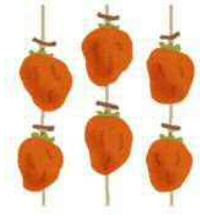
わが家の前のお宅と道を挟んだ隣の家は共に今、柿がたわわに実って見事な景観である。左の家は甘柿で反対側は渋柿ですが遠くからでも鮮やかに映えている。つややかな柿の色は秋の象徴のようだと毎日眺めている。甘柿は美味であり、渋柿は酒に浸せば渋が抜けて上等の柿に変身する。また皮を剥き北風に晒せばこの上ない味の干し柿が出来る。ある年いただいた柿で干し柿を試みたら不運にもその年は暖風が吹いて折角の丹精した柿に緑色の黴がびっしりと生えて駄目にした辛い思い出がある。それ以来、空を見上げながら風の具合は？と思うのである。

異常な気候の今年の秋も夏をひきずるような日もあり、これではとても干し柿は出来ないだろう。

日が短くなり庭一面に菊の花の蕾が出番待ちである。千両の実も赤くなった。百日紅は完全に役目を終えた。名前の百日は過ぎている。

賑やかだった秋の虫たちの声もいつしか止んだ。これから紅葉の季節が深まり年の瀬に向かう。

晩秋



調査区 1 弥生桜そう

暖冬といえども 11 月ともなると秋の季節はいつしか深まってい
く或る日のこと、隣家から待望の渋柿をたくさんいただいた。早速
半分を焼酎に残りを干し柿にする。皮を剥くのも鼻歌交じりで、楽
しみながらの作業である。包丁を研いで仕上げ、吊るす。これら
が出来上がる日を想像するのは良い気分である。「早く木枯らしが吹
かないか？」勝手なものでそうなるとう寒い方が良いのだ。今度は是
非とも成功するように、そして見るごとに出来上がる日を思う……。
寒風に晒されて熟した柿は極上の珍味なのだ——。

もう秋の花々もほとんど終わり冬眠に入ったようだ。名残の菊を
片付け根だけを残した。初夏から秋口まで律義に咲き通してくれた
彼らに、有難うと感謝を告げる。花の少ないこの季節に千両と万両
の赤い実が鮮やか。南天の実も同様であるが私は大きくなるのを嫌
い切り取るので実が生らない。

ペンネーム：ゆきひめ

キノコの秋

10月29日 調査区2

勤め先が立石なので、このところ立石での観察が続いています。

普段は素通りしている花壇ですが、茶色の土に混ざって「何かがある！」と目にとまったのはキノコでした。



図鑑で調べてみると、左が「オオチャワンダケ」

右が「コチャワンダケ」のようです。

オオチャワンダケは、10円玉くらいの大きさで、キクラゲのような感触です。毒があるそうなので、食用にはできません。

コチャワンダケは、小指の先より少し小さく、ふた？が取れてしまっているものがお茶碗にそっくりです。

夏の間は草むしりを何度かしましたが生えていなかったの、やはりキノコは秋の風物詩？なのですね。

これに先立つ10月16日には、西亀有せせらぎ公園でもキノコを発見しています。残念ながら、名前探せませんでした。



ペンネーム：ゆきひめ

数珠玉

11月7日 調査区2

会社にご年配の女性が訪ねて来られ、「ごごくだまを分けてほしい」とのこと。お話をうかがうと、花壇にある数珠玉のことでした。栃木では「ごごくだま」と呼ぶそうです。

そういえば、昔は区内のあちこちに生えていたのに、最近はめったに見かけなくなりました。子どもの頃、糸を通して腕輪など作って遊んだものです。調べてみると水辺の植物のようですが、花壇でも立派に育っています。



氏名：藤並 剛 町名：亀有 調査区：3

9月16日(日) 午前10時頃、天気は曇り(風なし)、気温23度くらい。亀有3丁目の中川橋周辺。野鳥は、スズメ、ヒヨドリ、シジュウカラ(1)を見つけた。昆虫は、ウスバキトンボ(1)、シオカラトンボ(1)、アカタテハ(1)、ヤマトシジミ(3)、ナミアゲハ(1)、モンキチョウ(2)、キチョウ(1)チャバネセセリ(3)、カネタタキ、エンマコオロギ、ツヅレサセコオロギ、ハラオカメコオロギを見つけた。植物は、ヒナタイノコズチ(1)、ヘクソカズラ、ツユクサ、メヒシバ、オヒシバ、カタバミ、ムラサキツメクサ、シロツメクサ、アメリカオニアザミ(2)、セイヨウタンポポ(1)、ヨシ、シマスズメノヒエ、エノコログサ、アキノエノコログサ、キンエノコロ、ジュズダマ(1)を見つけた。

9月23日(日)【秋分の日】正午頃、天気は晴れ(風なし)、気温25度くらい。亀有5丁目の東部地域病院周辺。野鳥は、ヒヨドリ、シジュウカラ(1)を見つけた。昆虫は、ツマグロヒョウモン(1)、ヤマトシジミ、カネタタキ、ハラオカメコオロギ、ツヅレサセコオロギを見つけた。アベリアの花の蜜を求めて、オオスカシバ(1)も見つけた。植物は、ツユクサ、ヘクソカズラ、カタバミ、アキノエノコログサ、ヒガンバナ、ハナミズキの赤い実を見つけた。シラカシの青い実(どんぐり)も見つけた。

9月28日(金) 午後9時頃、天気は晴れ(風なし)、気温は20度くらい。亀有5丁目の東部地域病院周辺。昆虫は、カネタタキ、ツヅレサセコオロギ、ハラオカメコオロギ、アオマツムシ(2)を発見した。オシロイバナの葉の上で、アキアカネ(1)が休んでいるのも発見した。植物は、アキノエノコログサ、ススキ、カタバミ、メヒシバ、オシロイバナを見つけた。ヒガンバナの花が終わり、キンモクセイの花が咲いた。

今日、30日、台風24号が沖縄・九州地方から関東甲信越地方にかけて日本列島を縦断している。日本は災害列島となり、四季の変化のある国ではなくなる恐れもテレビ報道などと言われるようになった。持続可能な社会の構築を急がなければならないときが来ている。

それでは、私たち何をなすべきか。身近な自然と人を育むことで、一步でも地球規模の課題解決の歩みを進めることが大切である。2015年、国連でSDGs(持続可能な開発目標)が発表された。これは、2015年9月の国連サミットで採択した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された16年から30年までの15年間で国連加盟国が達成すべき目標である。世界が抱える問題を解決し、持続可能な社会を実現するための17目標、169のターゲットから構成される。例えば、目標1.あらゆる場所のあらゆる形

態の貧困を終わらせる、目標2. 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する、目標3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する、目標4. すべての人々への包括的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する、など17目標がある。目標4は、とくにESD（持続可能な開発のための教育）のことを示していると、私は思う。2005年から2014年まで、国連のキャンペーンで「国連ESDの10年」が実施され、その成果が日本でも2020年から始まる小・中学校の学習指導要領に、「持続可能な社会の創り手となることができるようにすること」が明記された。また、文科省と環境省の連携の事業として、ESD活動支援センター（渋谷区神宮前）が設置された。昨年、11月24日と25日にESD推進ネットワーク全国フォーラム2017が、会場の立教大学池袋キャンパスで開催されて、私も参加した。24日午前は、ESD実践校でユネスコスクール加盟校の江東区立八名川小学校（校長・手島利夫）の授業見学と校長先生のお話を伺い、有意義なときを持つことができた。今年、1月には八名川小学校を再度訪問し、「八名川祭り」を見学した。児童のプレゼン能力の高さに感動した。

今年も、11月30日（金）と12月1日（土）、ESD活動支援センター、文科省、環境省主催で、会場・国立オリンピック記念青少年総合センター（渋谷区代々木）にて全国フォーラムが開催されます。今年も、私は参加する。

さらに、身近なESD実践として、子ども食堂連続学習会に参加する予定である。これは、11月25日（日）【こども食堂も子どもたちも地域ネットワークに支えられる】をテーマに、足立区で子ども食堂を運営されている方など5名を講師に、ワークショップを行うプログラム（会場・かつしかエコライフプラザ）や、2019年1月11日（金）【いま、なぜ「こども食堂」？】をテーマに、法政大学教授で社会実践家の湯浅誠さんの講演プログラム（亀有地区センターホール）など、4回講座で1つでも受講が可能である。私は、かつしか子ども食堂・居場所づくりネットワーク世話人として、企画づくりから係わり、本番もすべて参加したいと思う。このチラシと「かつしか子ども食堂マップ」は、9月24日開催された「子ども・子育てフェスタかつしか2018」でも配られたが、葛飾区内の児童館・保育園にも配布される予定である。

環境教育は、ESD実践と結びつき、ますます大切さが増している。絶滅危惧種の昆虫少年を育むことが地球温暖化を防ぐ鍵だと信じる。（9月30日）

10月21日（日）正午頃、天気は晴れ（風なし）、気温21度くらい。亀有5丁目東部地域病院周辺。野鳥は、ムクドリ、ヒヨドリ、オナガ（4）を見つけた。昆虫は、ツマグロヒョウモン（1）、ヤマトシジミ、チャパネセセリ（1）、

ナミアゲハ（1）を見つけた。植物は、アキノエノコログサ、イモカタバミ、カタバミ、シラカシの実、ハナミズキの赤い実を見つけた。

10月7日（日）に名古屋市へ行った。なごや環境大学で、ESD・SDGsの講師として伺った。名古屋環境サポーターや学校教員が集う講座の講演をし、WSのコーディネーターを担った。東京の取り組みに、新しい視点（子どもや未来）を考えて、自分たちの活動を振り返るキッカケをつくることが出来た。10月28日（日）に新宿御苑に行った。シェアリングネイチャーエクササイズの森林浴体験をすることが出来た。都心の真ん中である新宿で、大自然で味合う体験をすることが出来て良かった。コクワガタやハラビロカマキリにも出会うことも出来た。今夜から寒さが増し、最低気温が8～9度になるようだ。秋も深まり、紅葉の季節を迎える。楽しみである。（10月31日）

11月2日（金）午前9時頃、天気は晴れ（風なし）、気温は14度くらい。亀有5丁目の東部地域病院周辺。野鳥は、スズメ、ヒヨドリ、シジュウカラ（4）を見つけた。昆虫は、カネタタキ、ヤマトシジミを見つけた。植物は、コセンダングサ、ススキ、セイタカアワダチソウ、カタバミ、ツユクサ（1）、オシロイバナを見つけた。もみじが紅葉し始めた。カツラ・ハナミズキの葉も、黄色や赤茶色に、少し色づき始めた。シラカシの実（どんぐり）も落ちていた。

11月25日（日）午前10時頃、天気は晴れ（風なし）、気温は、12度くらい。亀有5丁目の東部地域病院周辺。野鳥は、ヒヨドリ、キジバト（1）を見つけた。昆虫は、カネタタキ、ヤマトシジミ（1）を見つけた。植物は、コセンダングサ、サザンカの花を見つけた。サクラは紅葉し、木の葉はほとんど残っていなかった。カツラとハナミズキは紅葉し、半分の葉が残っていた。ケヤキは赤茶色に紅葉し、これから葉を落とす準備中であつた。秋が深まった。

子どもと未来の環境を守ることが、持続可能な社会の構築にとって大切であると思う。かつしか子ども食堂ネットによる「こども食堂のいろは連続学習会」が始まった。11月11日（日）、il sole Gaoシェフの辻講師のアレルギー対応の料理の考え方を聞いた。シェフの料理やお客さんのニーズに対する接客の素晴らしさも分かった。「子どもの最高の笑顔が力の源」という台詞が印象に残った。11月25日（日）、足立・江東・台東の子ども食堂運営者と、江戸川区子ども家庭部成長支援係長の講師の皆さんのお話を聞いた。それぞれの地域の状況に応じて開催している様子が分かった。江戸川区では、行政はあくまでも後方支援で、あたたかく子ども食堂運営者を援助していることも分かった。また、区みずからの取り組みとして、地域包括支援センターによる子ども食堂の設置もすすめており、高齢から子どもまでの方の支援や、地域再生について他の区の運営実地状況を勉強しながら江戸川区の施策として実施している。（11/30）

氏名：石鍋 壽一	町名：小菅	調査区：3
----------	-------	-------

えっ？そんなこと子供に教えていいの？

区の図書館の子供向けの環境の本がどの程度なのか見てみました。

そうしたらごみ焼却場で焼いたごみがセメントとしてリサイクルされている事が図で書かれていました*1。びっくりしました。セメントで作った建物は丈夫で高級なイメージで売られており、原料の一部が廃棄物や副産物から作られている事はなかなか知らないからです。がれき、鉋さい（金属を取ったあとのもの）など様々なものが材料になっています。東日本大震災のがれきをセメント工場が引き取った事は少し報道されました。また、セメントを焼いて造る際は燃料として廃油、廃プラスチック、廃タイヤなどが利用されています。セメント産業では多くの廃棄物、副産物を原料や燃料に活用しています。

子供のころ、建物や道路、堤防などセメントが何故こんなに多いのか疑問でした。セメント・コンクリートが丈夫で有用である事はもちろんです。廃棄物、ごみによる埋め立てを減らしリサイクル材として街づくりに活用されています。

別のもう一冊を手にとってみました。その本の「はじめに」で「ものが増えると同時に、ごみもものすごい勢いで増え多くの問題を引き起こしています。生活環境を悪化させ、生き物たちのすみかをうばい、さらにごみを捨てる場所がこれ以上ない事が、大きな問題になってきています。」*2と書かれていました。

近頃はお医者さんが手術前に手術のリスクを説明するように、組織ではリスクマネジメントとしてリスクコミュニケーション（リスクを説明し理解を得るなど）するようになっています。

子供たちは、大人達が知らなかったリスクを次の時代のために認識しなければならないという事が起きているようです。

時代は変わったなあと思いました。

参考文献

*1

タイトル 「ごみはどこに行くのか？収集・処理から資源化リサイクルまで」
発行所 株式会社 PHP 研究所 発行者 瀬津 要
2018年2月1日 発行

*2

タイトル 「よく知って減らそう！ごみの大研究 3Rとリサイクル社会がよくわかる」
発行所 株式会社 PHP 研究所
監修 寄本 勝美 発行者 安藤 卓
2011年3月7日 発行

氏名	K・N	町名	東金町	調査区	5
(水元公園正面入口～養魚場入口間の指定種の植物と昆虫) 鳥類は大橋周囲～小合溜					
種類	8月～11月の4か月の数値 (タンポポや野鳥は数値表示)				

No1

種類	8月	9月	10月	11月	種類	8月	9月	10月	11月
西洋タンポポ	7	0	9	10	シロツメワサ	多	多	10	0
つゆ草	多	15	多	0	関東ヨメナ	0	10	多	10
シジミ蝶	10	20	25	10	アゲハ蝶	3	1	0	2
クロアゲハ蝶	1	0	0	0	モンシロ蝶	10	0	0	0
カモ類	7	10	20	200	アオサギ	0	1	2	1
ユリカモメ	0	0	0	40	中サギ	0	0	1	0
					コサギ	1	0	1	1

溜池の水草の特徴は、

- ① 大橋周囲～小合溜内の水草対策が今年7月頃開始され効果あり、水草が減少
- ② 釣り人達が採取した物は池の端につまれ肥料にでもなりそうだ。

七月

11日



・野鳥の特徴

- ① カモ類とユリカモメが11月に増加。本日は餌上げの人なし。10月、久々に中サギをみた。釣り人の側にコサギがいたが、数ヶ月見られない。「親になってエサの時間じゃないか?」「最近、アオサギが世代交代後1羽いついた。縄張り争いの結果?」の情報を聞いた。
10月、菖蒲田の休憩所の屋根にアオサギが1羽、力の誇示か?



・植物の特徴

- ①近所の庭にサザンカの花発見、庭で椿の花5輪咲く。11月アサガオ?
- ②全国で季節外れの桜が咲いたと報告あり。庭で小リンゴを9月に5個収穫、その木に10月下旬、なんと花が一輪咲く。

No 2

リンゴの花 ↓ つばき ↓ 附株 ↓



切り株の穴 ← 深い ← 浅い



道路の根曲り株 (若い?)



西洋タンポポ (私たち) の雑談

私たちとおばあちゃんの出会いは、平成17年の春。おばあちゃんは花数を数えていた。花の裏を探り種類の判定だろうか? 『1904年、牧野富太郎氏が日本に西洋タンポポが帰化と報告。関係者の調査によると、東京にあるタンポポの88%が西洋タンポポだよ。(某大学教授の根本氏メトロガイドエッセイ参照)』

でも、神社側の土手の一部に「関東タンポポ」があるよ。昭和前期の土が残る場所、春には水元地域の古家の庭、道路の脇などにもある。開発で数は減ったけど。

西洋タンポポは多産で、年に数回開花、一年中咲くようになった。この強いタンポポでさえも、「何でこんなにも減ったの…」と嘆いている。

つづく 数の変化は次回をお楽しみに。

自然観察レポート 9・10・11月巻 秋から初冬へのお誘い 調査区5 佐々木定治

秋からのプレゼントは冬？



9月26日 水元2丁目 アゲハの幼虫



11月21日 カキ↓ 10月25日 カマキリ↑



あの猛暑の夏は平成最後を惜しむ夏だったのでしょか？また、台風をはじめとして自然災害の頻発が痛ましい傷跡を残しました。

9月になっても秋を感じるにはまだ暑さが続きましたし、間もなく11月を迎えようとする10月25日にはカマキリがようやく世代交代の行動をし始めていました。このあたりから気温は高いものの、自然界の営みが、確実に季節の移行を呈し始めたような気がしました。

今年は柿が豊作で、11月25日の青い空に、たわわに結実した秋の贈り物として、目の前で見事な秋を見せてくれました。

柿の実もさることながら、柿の葉の見事な紅葉が素晴らしい秋を表現してくれていました。

間もなく冬がきます。

師走を迎えた12月6日の産経新聞によると・・・東日本、西日本を中心に、師走としては異例の暖かい陽気が各地で続いている。5日は東京都・小笠原諸島の父島で最高気温が27度に達した他、沖縄を中心に25度以上の夏日になる地点が相次いだ。東京都心でも、未明に10月下旬なみの20.2度・日中も18～19度と※

少し暖かですが、心配！

11月26日 テントウムシ



11月28日 タンポポ



12月2日 サザンカ



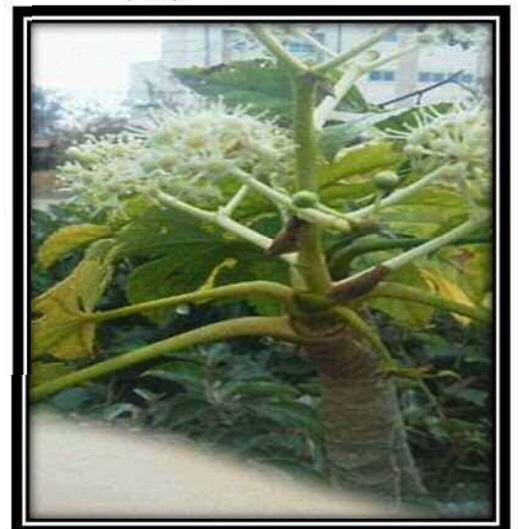
セリ



メナモミ



ヤツデ



※平年に比べて5度以上高く・・・。(12月6日付産経新聞から引用)

11月28日には水元でもタンポポの綿毛を観察しています。数日前にラジオでは、「今年の冬にタンポポが相当早く咲いています。」と放送していました。本当に季節がどうなっているのかと心配になってしまいました。

私はやはりこれは気候変動の関係が、大きく影響していると考えます。「自分でできる対応策の輪」をたった一つの地球のために広げたいものです。



アゲハチョウ(幼虫)

H30.9.23. 自宅のつゆりやーの木の吐子、葉を食べた。



ツマゲロヒョウモン(メス)

H30.9.18 道のそばの木(ランタナ)花にみつと



オンナバッタ

H30.10.20. 自宅のつゆりやーの葉に親子でいました。



アゲハチョウ(幼虫)

H30.9.18. 原木の葉跡等が確認された。子にも木を食らった跡が確認された。



アゲハチョウ(幼虫)

H30.10.7. 家の壁にアゲハチョウの卵がみつと

季節の写真集 (9月～11月)



「これ何？」

9/4 場所：東堀切

名前：RYU



「植え込み」

9/24 場所：お花茶屋

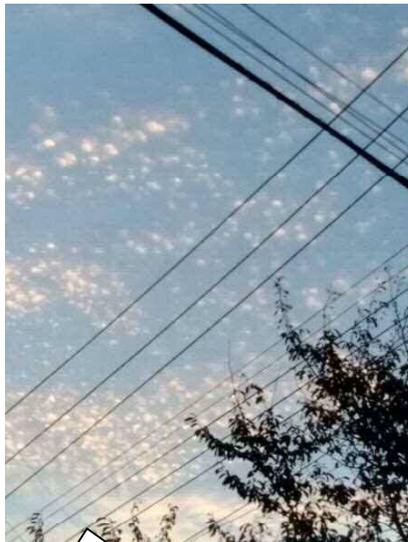
名前：R



「メドハギ」

9/22 場所：荒川河川敷

名前：石鍋壽一



「ぷつぷつ点天」

10/2 場所：西亀有

名前：RYU



「エノコログサ」
10月 場所：奥戸 名前：市原みずよ



「お茶の花」
10月 場所：奥戸
名前：市原みずよ



「イヌツゲの実」
10月 場所：奥戸 名前：市原みずよ



「ハナカンナ」
10/27 場所：荒川河川敷
名前：石鍋壽一

「冬の木秋の木」
11/25 場所：白鳥
名前：R





「ハジロカイツブリ」
11月 場所：水元公園
名前：高橋雅子



「イソシギ」
11/23 場所：荒川河川敷
名前：石鍋壽一



「ケヤキ」
11月 場所：東金町
名前：新井 正樹



葛飾柴又新八水路 魚からの便り-254

調査回数 調査日 地点	256			備 考	
	2018/9/29				
	本流	新八水路	新八ワンド		
1	オ オ ク チ バ ス	1 198			特定外来
2	カ ダ ヤ シ		4 25-36	16 12-26	特定外来
3	カ マ ツ カ	4 91-117			
4	ギ ン ブ ナ	1 128	2 57-80		
5	ゲ ン ゴ ロ ウ ブ ナ	1 107			
6	コ ク チ バ ス	1 80			特定外来
7	ゴ ク ラ ク ハ ゼ	1 60			
8	ス ズ キ	2 138-162			
9	デ メ モ ロ コ	1 80			
10	ニ ゴ イ	29 95-195			
11	ヌ マ チ チ ブ	5 26-55			
12	ハ ス	1 96			
13	ボ ラ	16 164-256			
14	マ ハ ゼ	147 63-120			
15	メ ダ カ			6 17-25	
計		13種類210個体	2種類6個体	2種類22個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、新八ワンドあわせて15種類238個体の魚類が採集されました。
- ・ 雨 気温20.1℃、水温 本流19.2℃、新八水路21.9℃、新八ワンド20.6℃
（15時頃測定）

【参加者コメント】

- ・ 降雨による増水で江戸川の水閘門が開放され、水位が下がって流速がかなり速かった。そのため河岸からやや離れた線に添っては200mm前後のボラが採れ、それより岸寄りではマハゼが固まって投網に入った。魚種による流速域の選択性が異なっているのが面白かった。
ヌマチチブの個体数が少なく、鰓蓋外縁部に白い寄生虫が付着している個体が多かった。罹患でまた激減しないか心配だ。
4個体のカマツカが採れた。今年は台風による増水が多かったのも、砂礫の底質部分が形成されたのなら嬉しい。河口堰がなければ、柴又付近は本来中流域の末端に位置するから、カマツカの流程分布域に含まれる。(YK)
- ・ 終了直前、本流の、新八のすぐ上手の浅場でスズキが入りました。流れが速く、魚も川の中でずいぶん移動していたようです。堰が開いているような日には、いつも自分がねらわない場所やタイミングを試してみるのも、漁獲につながるかもしれません。(KI)
- ・ 朝方2人で始めた時はどうなるかと心配していたが、終わってみれば6人に増えていた。しかも、少人数にしては8月よりも多くの種類が捕れ、悪天候の中での皆の頑張りの成果だ (SI)

【今後の調査日】 10月27日（土）11月24日（土）12月22日（土）

HP (<http://shigenori1.jimdo.com/>) 新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

葛飾柴又新八水路 魚からの便り-255

調査回数 調査日 地点		257			備 考
		2018/10/27			
		本流	新八水路	新八ワンド	
1	オ オ ク チ バ ス	2 208-213			特定外来
2	カ ダ ヤ シ		12 11-30	50 11-25	特定外来
3	カ マ ツ カ	1 115			
4	ギ ン ブ ナ			8 93-143	
5	ゲ ン ゴ ロ ウ ブ ナ	1 368		2 103-133	
6	コ ク チ バ ス	2 102-155			特定外来
7	タイリクバラタナゴ		2 13-23		
8	ド ジ ヨ ウ		1 32		
9	ニ ゴ イ	3 100-111			
10	ヌ マ チ チ ブ	4 32-63			
11	ハ ス	2 117-121			
12	マ ハ ゼ	24 73-111			
13	マ ル タ			1 62	
14	メ ダ カ	1 25		2 21-22	
15	モ ツ ゴ			1 26	
計		9種類40個体	3種類15個体	6種類64個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、新八ワンドあわせて15種類119個体の魚類が採集されました。
- ・ 曇りのち晴れ 気温25.0℃、水温 本流18.4℃、新八水路20.1℃、新八ワンド19.1℃（15時頃測定）

【参加者コメント】

- ・ 前週に行なわれた荒川のワンドの「かいぼり」で一緒した方2名が初参戦された。女性の方が初っぱなに投げた投網で368mmのゲンゴロウブナを採集、一同唖然とした。彼女の今後の人生は如何に？
増水のせいかわたし大ききのギンブナとゲンゴロウブナがワンドで採れた。避難する場所に使っていたのかもしれない。(YK)
- ・ 午後、千葉側の空に見えた『切断されたような雲』は、“消滅飛行機雲”というもののようです。猫のアイドルH気象予報士が、ちょうど、TVで解説をしていました。(KI)
- ・ 本流であまり魚が見られなくなってきたことに季節を感じました。本流とは異なり、ワンドではフナが多く、水温が理由なのか先日の台風の関係なのか気になります。(E大A0)
- ・ 本流の水位が高くて難儀したが、前回（9月）と同じ数の種類が採れた。本流での種類の減少を水路とワンドがカバーした格好となった。(SI)

【今後の調査日】 11月24日（土）12月22日（土）

HP（ <http://shigenori1.jimdo.com/> ） 新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

葛飾柴又新八水路 魚からの便り-256

調査回数 調査日 地点	258			備 考
	2018/11/24			
	本流	新八水路	新八ワンド	
1 オ イ カ ワ	4 36-60			
2 カ ダ ヤ シ		18 11-34		特定外来
3 シモフリシモハゼ	2 43-50			
4 タイリクバラタナゴ		6 18-49		
5 ニ ゴ イ	1 66			
6 ヌ マ チ チ ブ	9 45-61			
7 ヒ イ ラ ギ	1 38			
8 ボ ラ	10 143-180			
9 マ ハ ゼ	13 92-116			
10 メ ダ カ		1 30	1 27	
計	7種類40個体	3種類25個体	1種類1個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、新八ワンドあわせて10種類66個体の魚類が採集されました。
- ・ 曇り時々晴れ 気温12.2℃、水温 本流11.6℃、新八水路11.6℃、新八ワンド12.4℃（15時頃測定）

【参加者コメント】

- ・ 大潮で昼頃が干潮だったためか、水位はやや低かったが、風もあって寒い日だった。J女子大の新人が来たので、ベテランが早速投網の訓練をして、川に入ると見事にヌマチチブを網に入れた。腹腔に白い寄生虫が見えていて、やや弱った状態のシモフリシマハゼ1尾が採れた。感染が拡大しないことを祈る。(YK)
- ・ 本流の水位が低く、水際にコカナダモかな？という水草がありました。外来水草に定着されたら困りものです。(KI)
- ・ 昼食用の味噌汁が少し残っていたが、午後からの参加者が平らげてくれて、鍋も洗ってくれて助かった。(SI)

【今後の調査日】 12月22日（土）

2019年：1月26日（土） 2月10日（日） 3月23日（土） 4月21日（日）

HP（ <http://shigenori1.jimdo.com/> ） 新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

環境課からのお知らせ

自然環境係 電話5654-8237(直通)

☆自然環境レポーター研修会を行いました☆

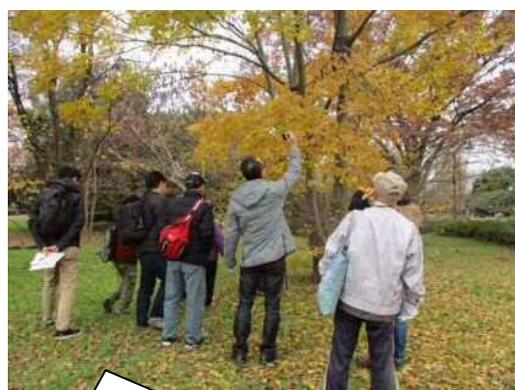


12月8日(土) 10:00~12:00に水元公園のかわせみの里にて自然観察会を行いました。

前半は小台溜周辺を歩きながらオオバンやマガモなどの水鳥やピラカンサやユズリハなどの植物の観察をしました。専門的な質問も飛び交う開催者である私も大変参考になりました。後半は画用紙とストローを使ったクラフト作成を行いました。皆さん思い思いに色を塗り工作を楽しんでいました。普段何気なく通り過ぎてしまう場所でも、ふと足を止めて目を凝らしてみると思いがけない発見があるんだなと実感しました。



オオバンなどの水鳥がホテイアオイを食べた跡がありました。



エノキの実は種が多いですが人間も食べられるそうで、美味しいらしいです。



この茂みには野鳥の冬の食糧源であるカイガラムシがたくさんいるそうです。



かわせみの里内でカモのパタパタクラフトを作成しました。

研修会に参加していただいたレポーターの皆さんありがとうございました。今回参加できなかった方もお時間ありましたら、次回の研修会に参加していただけたいと思います。次回は2月中旬～3月上旬あたりを予定しています。



「水辺のふるさとかつしか」第307号
(葛飾区 自然環境レポーター通信第259号)

平成30年12月26日 発行

葛飾区環境部環境課自然環境係

〒124-8555 葛飾区立石5-13-1

TEL(3695)1111 内線3522~3

直通電話 (5654)8237

fax (5698)1538



「水辺のふるさとかつしか」の内容について、お間違い等お気づきの点がありましたらお知らせください。